

2015年10月13日
プルデンシャル生命保険株式会社

スチュワードシップ活動報告（2014年度）

当社は、2014年8月、「責任ある機関投資家」の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》（以下「本コード」と言う。）の主旨に賛同し受入れを表明しており、日本版スチュワードシップ・コードに関する方針を定めました。当該方針に則り実施した2014年度における議決権行使結果と対話結果をお知らせします。

なお、当社は国内上場株式の運用を運用会社へ委託しています。

1. 議決権行使結果

当社の保有する日本株式について、2014年9月から2015年6月末までに開催された株主総会において下記のとおり議決権を行使しましたのでお知らせ致します。

	賛成	反対	棄権	白紙委任	合計
a. 剰余金処分案等	148	0	0	0	148
b. 取締役選任	1,597	33	0	0	1,630
c. 監査役選任	255	56	0	0	311
d. 定款一部変更	104	0	0	0	104
e. 退職慰労金支給	10	1	0	0	11
f. 役員報酬額改定	62	2	0	0	64
g. 新株予約権発行	18	7	0	0	25
h. 会計監査人選任	0	0	0	0	0
i. 組織再編関連	1	1	0	0	2
j. その他会社提	11	9	0	0	20
合計	2,206	109	0	0	2,315

<主な反対事例>

- 取締役選任議案において、低ROEの会社に対し、代表取締役の再認に反対した。
- 監査役選任議案において、独立性基準を満たさないことから、反対した。
- 買収防衛策継続の議案において、社外取締役の独立性基準に合致しないことから反対した。

2. 対話活動の結果

当社は投資先企業の企業価値の増大、持続的成長を促すための対話を行い、中長期的なリターン拡大につなげて、保険契約者等に対する確実な保険金等のお支払いを支えていく方針です。2014年度においては、主に以下の観点から、運用委託先を通じて投資先企業と対話を実施しました。

対話の種類	件数
状況把握に関する対話	894 件
資産効率に関する対話	259 件
ガバナンスに関する対話	132 件
株主還元に対する対話	462 件
総対話数（※ 1度の訪問で複数種類の対話を含む）	1,379 件

<主な対話内容>

- 資本効率性が対話の代表的なテーマとなった。特に、ROEを一つの大きな物差しとして、長期的な低迷に苦しむ企業に関しては課題を共有するよう努め、提言も行った。また、企業が低採算性事業や赤字事業に関しての意見も述べた。さらに、自己資本が相対的に優れている会社などには、資本の最適化という観点から自己株買いや配当についても議論を重ねた。一部では対応をする企業が現れるなどの一定の効果はあったものとする。
- 政策株式の保有について、利潤の追求、株主への利益還元、株主一般との潜在的な利益相反等の点で適切なガバナンスを確保することが可能か議論を重ね、極力縮小すべきとの当社の考え方を提言。一部の企業では保有しないことを基本方針としてコーポレートガバナンス報告書で明記されたことなどから一定の効果はあったものとする。